

四阿山山スキー報告

【山城】長野・四阿山（2383m）

【日程と天候】2014年2月17日（水）曇りのち雪、その後一時晴れ 低温（上部で-10℃）

【メンバー】CL 菊池・鈴木（忠）・井上（里）

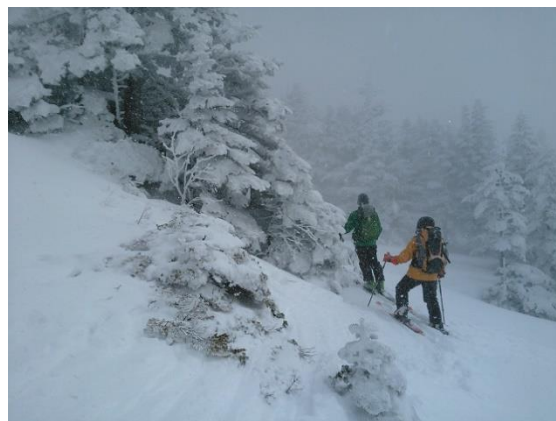
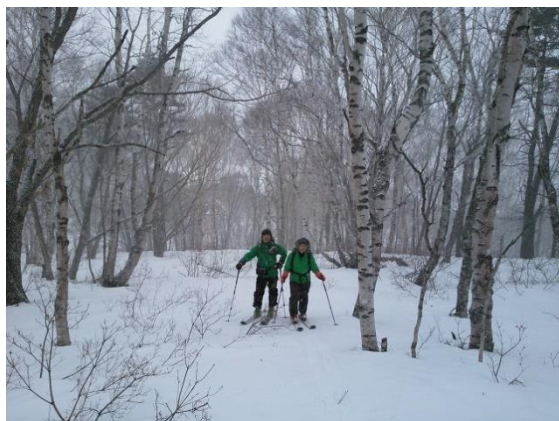
【行程】千葉（菊池家 3：15—鈴木家 3：45—千葉北 IC—横川 SA15 分休憩—7：50 あずま高原ホテル駐車場（1450m）8：10—11：50 標高 2160m 地点（滑走開始地点）—1850m 付近から南面斜面—ボトム—牧場—14：40 駐車場—真田温泉—帰葉



・土・日（13・14）のバカ陽気（千葉で21℃）で上信越スキー場の積雪は激減したが、標高の高い菅平スキー場の積雪はそれほど減らず130cmであった。月曜以降は冬型になり、上信越はかなりの降雪があり、ガリガリの弱層形成による雪崩の危険性があったため、急斜面のパウダー狙いはヤバイと考え、数年ぶりに四阿山を選択した。駐車場に到着すると前日からの降雪はごくわずかである、上部の降雪量の増加に期待し、固い登山道ルートを牧場に向かってシール登行を開始した。平日であり、単独の若者が一人先行したのみであ

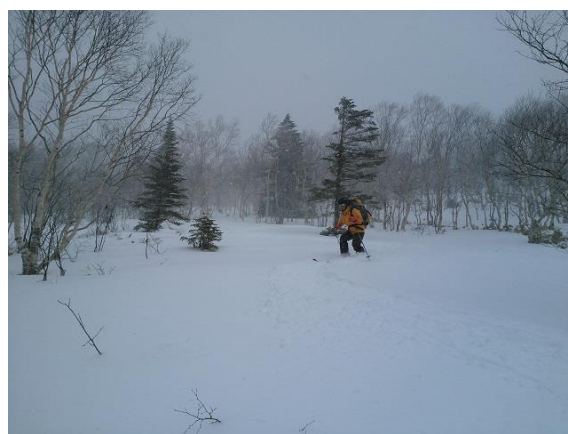
った。

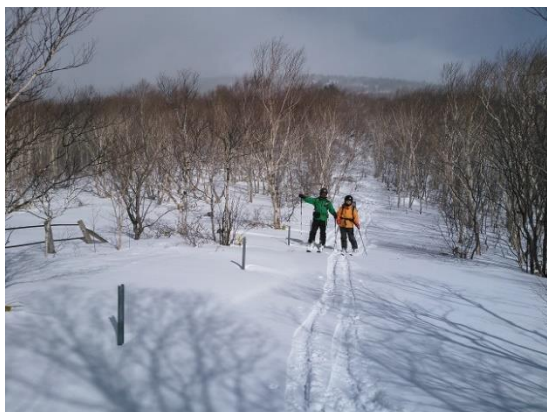
・有刺鉄線を跨いでいつもの牧場の末端に出ると風はそれほど強くない、2012年にお楽しみルートを下ったときのルートを、今回は周辺をゆっくり観察しながら登ることとした。ほぼ水平の切り開きを進むと牧場の柵がある、有刺鉄線を跨いだり潜ったりしながら牧場を越え、徐々に高度を上げながら白樺林に癒されながら登山道ルートに出た。はじめは小雪であったが、高度を上げシラビソ林の領域に入ると、かなり激しい降雪模様となり、山岳天気予想（山頂は 18m ほど）通り風がかなり強くなってきた。ガスで視界もやや不良、



雪付きの悪いやや急なガレ場を登るのが難しく、この地点（2160m 付近）で風の弱いシラビソの陰で休憩、行動食を採りながら滑走準備をした。-10℃ほどの低温、降雪量 15~20 cmでガリガリの固いバーンの上にサラサラの極上パウダーが乗っかっている状態である。

・ガリガリバーンの上にドライパウダーが乗っかり、緩斜面といえどもかなりスピードがでる。低木藪が濃い所もあり、慎重にスピードコントロールしながら下った。浮遊感はないが、極上パウダーに気持ちよいターンを刻め、ちば山山スキー初参加のIさんも安定したホームで無難にこなしている。期待の新人（??）である。短い距離で頻回に止まりながら、開けた斜面を選びながらゆっくり下った。滑りやすい雪質に短時間で切り開きの登山道ルートに戻ったが、そのころには青空が広がり記念撮影を行った。





・後半戦のお楽しみ南面ルートは藪がやや煩いが、期待通りの滑りやすい雪質である。下地のガリもなく、気持ちよい滑走感を味わいながら変化のある標高差 180m ほどのルートをボトムの牧場まで滑った。牧場で陽光を浴びながらの休憩は気持ちよく、マイシュプールをバックに記念撮影した。登山口に戻る登山道ルートも 10 cm ほどの新雪で覆われ、脇の林間を最後まで気持ちよく滑走することができ、今回は終始、high quality powder run を堪能できた。



期待の新人 I さんの感想です。

昨年九月に入会した時、山スキーを始めたばかりの私は、ちば山で滑ることは諦めていました。しかし後で後悔しないよう思い切ってお聞きしてみると、登山靴から兼用靴に変えれば可能性が有りそうだったので一月半ばに兼用靴を購入しそしてリーダーKさんによる初級試験を四阿山でしていただきました。



早朝四時頃千葉を出てあずま高原ホテルを八時過ぎにシールを着けて歩き始めます。直ぐに私のバタバタとした歩きを直してもらい、かたくなっている林の中のトレースをたどると開けた牧場に出ます。

雪面は凍っていていやな感じで、さっそく帰りの心配をしてしまう。その先の緩い下りでは踵がフリーになっている事を忘れ前に思い切り転んでしまった。くれぐれも怪我をしないよう気をつけなければ。

有刺鉄線をこわごわ越したりくぐったりしながら牧場を超え林に入ると、リーダーが盛んに滑ったら気持ちよさそうと言う。けれど私ははたして滑れるだろうかと益々不安になってしまう。帰りの下見を兼ね登山道から右にはずれて歩いていたので左の尾根筋に戻った頃から雪が降り始め積もり始めた。リーダーはいい感じで期待できるというけれど山スキー初心者の中には滑りの想像ができない。兼用靴でこんなに歩くのは初めてでこちらも心配していたけれどどうにか歩くことができ一安心する。

尾根を上がるほど吹雪のようになり歩くのが大変になるが木々に雪がたっぷりつき見とれてしまう。雪山は美しい。

歩き始めて四時間程の岩の出た稜線の下から滑ることになった。

シールをつけて何か食べてとリーダーから指示が出るが、私は滑りが心配で食べることが



できなかった。しかし、いざ滑り始めるとリーダーの後についていくのに夢中で、不安も恐さもどこかに行ってしまった。転んだり立木に突っ込んだりしながらも一応滑ることができ、綺麗な新雪の上を先頭で滑る楽しさもちよっと味わってしまった。リーダーは期待していなかったけれど今年一番のパウダーを楽しめたと上気味にいい、私のことも予想以上だったらしくとても誉めてくれました。

た。



スキーは自己流でスクールに入って基礎をしっかりと習っていないという劣等感でいっぱいでしたが少し気持ちが楽になりました。

二週間前グレンデ練習に連れて行ってくださった皆様、そしてリーダーKさん、まだ新人だけどベテランのSさん有難うござい

ました。

おかげさまで、初級合格しました。